

平成 13 年 11 月 26 日

各 位

会社名	安田信託銀行株式会社
代表者名	取締役社長 衛藤博啓 (コード番号 8404)
問合せ先	後記ご参照

財務基盤の抜本強化及び社名変更・資本関係等について

本日開催の当社取締役会におきまして、不良債権問題の早期解決と資本対策の増強による財務基盤の抜本強化、及び「みずほアセット信託銀行株式会社」への社名変更、並びに経営合理化策の追加を決議いたしましたので、お知らせいたします。

なお、株式会社第一勧業銀行、株式会社富士銀行、株式会社日本興業銀行は、平成 14 年 4 月 1 日、関係当局の認可等を前提に、分割・合併法制を活用し、株式会社みずほ銀行（以下 M H B K ）と株式会社みずほコーポレート銀行（以下 M H C B ）に統合・再編されますが、これに伴ない、現在富士銀行が保有する当社株式は、M H B K、M H C B 双方が所有することとなりますので、併せてお知らせいたします。

(概要)

1. 財務基盤の抜本強化

(1)不良債権問題の早期解決 (引当強化等)

大口要注意先を中心とした追加引当等に伴う与信関係費用の増額
(通期 1 , 4 0 0 億円から 1 , 8 5 0 億円へ)

(2)資本対策の増強

増資予定額の増額

富士銀行を引受先とする第三者割当増資 (優先株を予定) の予定額を増額し、
財務の健全性を高める

(5 0 0 億円程度から 1 , 2 0 0 億円程度へ)

減資予定額の増額

減資 (発行済株式数の変更は行わない) の予定額を増額し、当期欠損を一掃する
(1 , 0 0 0 億円程度から 1 , 5 0 0 億円程度へ)

2. 社名変更

平成 1 4 年 4 月より「みずほアセット信託銀行株式会社」に社名を変更

3. みずほフィナンシャルグループ内での資本関係

現在富士銀行が所有する当社株式は平成 1 4 年 4 月より M H B K、M H C B
双方が所有

4. 経営合理化策の追加

(1)役員数、役員報酬の削減

(2)賞与カット

1.財務基盤の抜本強化

(1)不良債権問題の早期解決(引当強化等)

喫緊の経営課題である不良債権問題の早期解決を以下により図ります。

- 最終処理の追加・加速
- 大口要注意先を中心に追加的な引当を実施し、将来業績への不測のリスクを極小化(みずほ3行と同様の基準で引当を実施)

今上期には厳しい経済環境が継続する中、自己査定の一層の厳格化・精緻化を図り、1,200億円強の不良債権処理を実施しました。

下期においても当面の不安定な経済・市場環境や「改革先行プログラム」の趣旨も踏まえ、大口要注意先を中心に追加的な引当及び最終処理の追加・加速等により、650億円程度の不良債権処理を見込んでおります。これらの処理により、従来予想を超えた不測の事態による今後の業績への影響を極小化し、業績回復をより確固たるものにいたします。

(2)資本対策の増強

追加引当の実施等により、当期利益予想額を1,220億円から1,800億円に修正いたしました。これにより、以下の通り9月15日に発表した増資、減資予定額を増額し、当社財務基盤を抜本的に強化いたします。

増資予定額の増額

富士銀行を引受先とする第三者割当増資(優先株を予定)の予定額を500億円程度から1,200億円程度へ増額いたします。(定款変更に関する臨時株主総会の特別決議及び金融庁への届出を前提とします。)

減資予定額の増額

赤字決算による当期欠損を一掃するため実施する減資(発行済株式数の変更は行わない)の予定額を1,000億円程度から1,500億円程度へ増額いたします。(臨時株主総会の特別決議及び金融庁の認可を前提とします。)

なお、上記臨時株主総会は1月下旬～2月上旬に開催する予定です。

《参考》平成14年3月期単体業績予想

(単位:億円)

	前回発表予想 (9/15)	今回修正予想	増減額
修正業務純益	600	640	40
与信関係費用	1,400	1,850	450
株式関係損益	150	300	150
経常利益	1,000	1,550	550
当期利益	1,220	1,800	580

2.社名変更

平成14年4月1日より社名を「みずほアセット信託銀行株式会社」に変更し、名実ともにみずほフィナンシャルグループ（以下MHFG）の一員であることを明確にいたします。今回の社名変更を機にMHFGにおける連携をより強化し、シナジー追求を通じて収益力を一層高めてまいります。（臨時株主総会の特別決議および金融庁の認可を前提とします。）

【新社名およびその意味】

みずほアセット信託銀行株式会社
（英文名：Mizuho Asset Trust & Banking Co., Ltd.）
（略称：MHAT）

「アセット」とは、「財産、資産」、さらに「価値あるもの、強み」の意

お客さまから託される大切な資産。その資産に関わるさまざまなニーズにベストの提案でお応えし、その価値を最大限に引き出していく当社の姿勢を社名に表します。

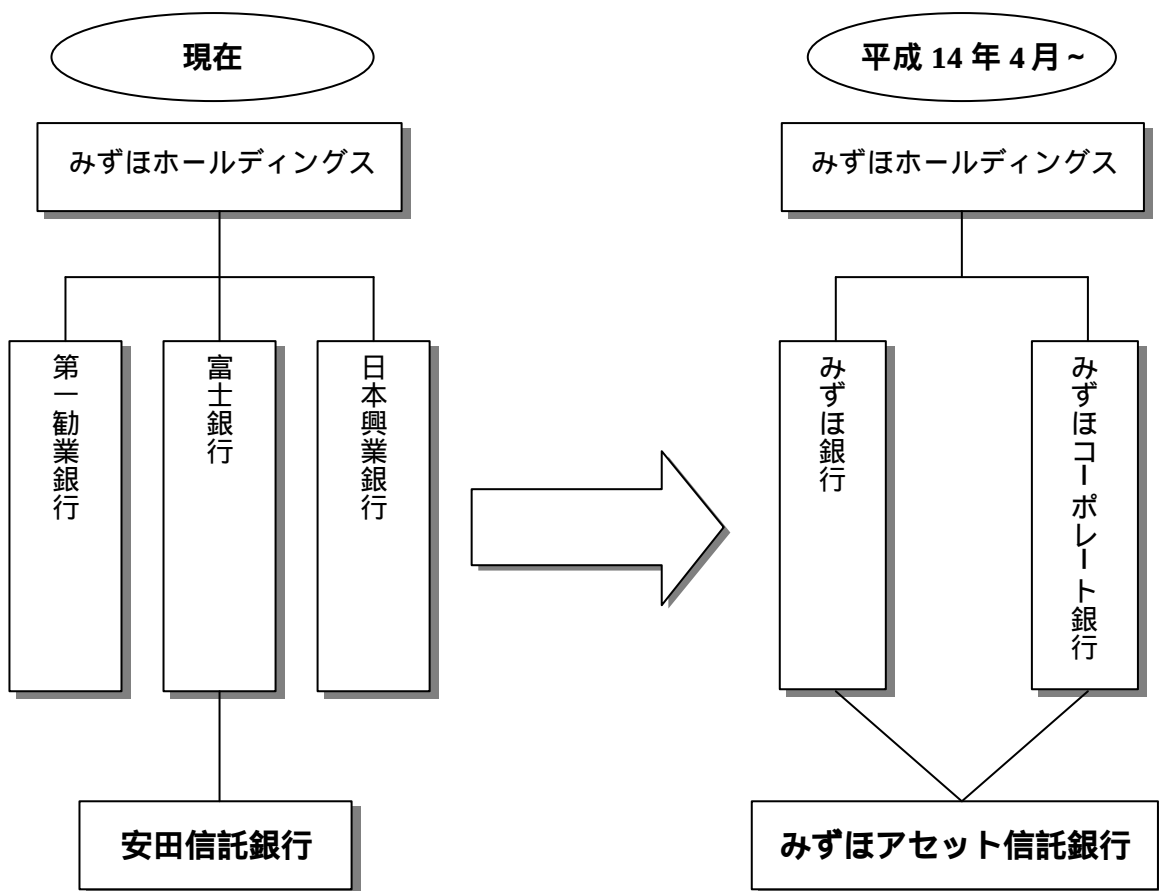
3.MHFG内での資本関係

株式会社第一勧業銀行、株式会社富士銀行、株式会社日本興業銀行は、平成14年4月1日、関係当局の認可等を前提に、分割・合併法制を活用し、MHBKとMHCBに統合・再編されますが、これに伴ない、現在富士銀行が保有する当社株式は、MHBK、MHCB双方が所有することとなります。

これにより、当社重点分野である、遺言信託を切り口としたプライベートバンキング業務、事業用不動産の仲介・流動化等で業界トップクラスの実績を誇る不動産業務、個人向け販売と連動した資産流動化業務、資産流動化業務のノウハウを活かした個人向け運用商品業務、において、信託固有の機能を活かしたサービス・プロダクトを、当社のお客さまはもとよりMHBK、MHCBの個人、法人のお客さままで幅広くご提供していく体制が整うものであります。

なお、当社株式の上場は継続いたします。

【資本関係】



4.経営合理化策の追加

先般発表いたしました経営合理化策に、以下を追加することといたしました。

(1) 役員数、役員報酬の削減

取締役を更に削減し現在の8名を5名に、常勤監査役4名のうち1名を非常勤に変更するとともに、平成14年度以降も引き続き、役員報酬のベースを役位に応じてカットいたします。(平成13年10月から平成14年3月までは50%カット)

(2) 賞与カット

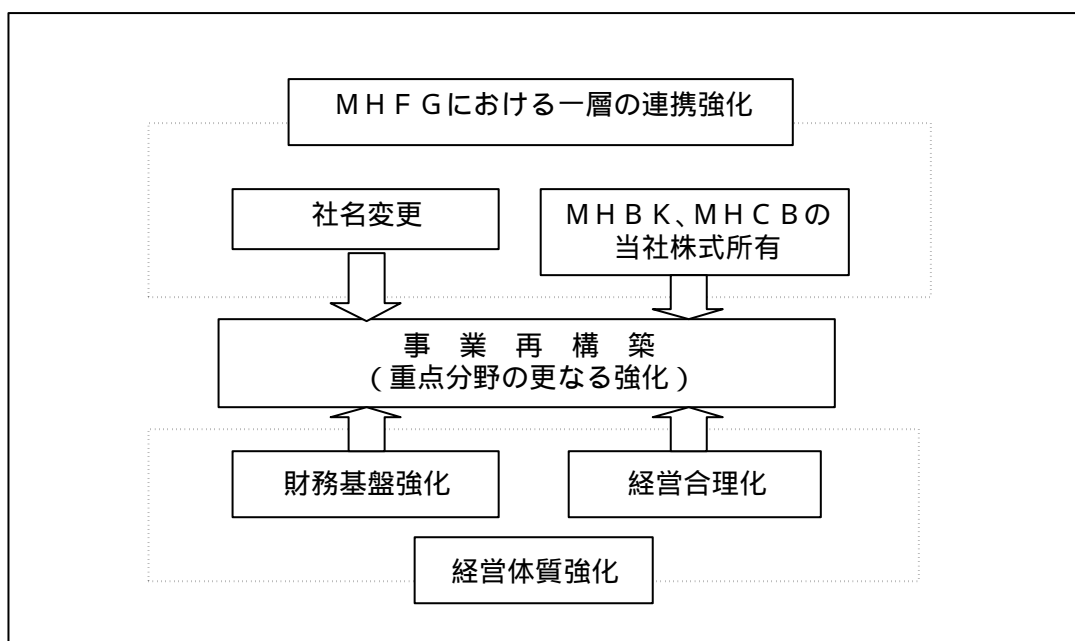
平成14年度より職員賞与を平均10%カットする予定です。

(平成13年度下期については部店長級の経営職階の賞与を50%カット)

以上

(ご参考)

新「経営基盤強化計画」の概要



1. MHFGにおける一層の連携強化

- (1) 「みずほアセット信託銀行株式会社」への社名変更
- (2) MHBK、MHCBの当社株式所有

2. 事業再構築 (重点分野の更なる強化)

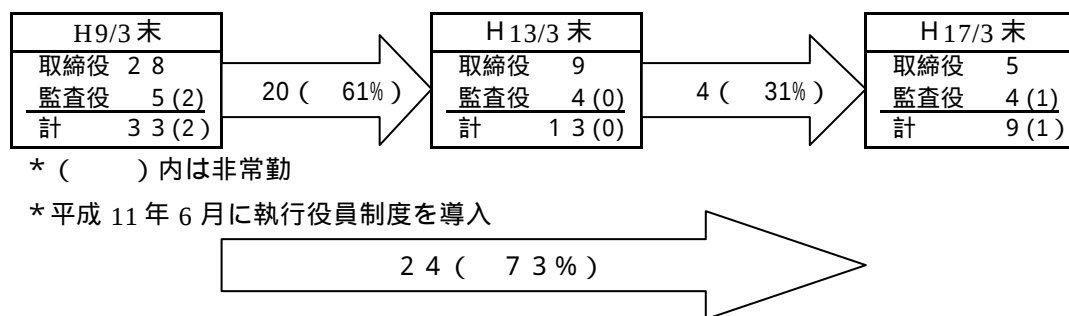
- (1) プライベートバンキング業務：遺言関連業務、不動産業務、信託運用商品販売等
- (2) 不動産業務：仲介、鑑定、不動産流動化等
- (3) 資産流動化業務：個人向け流動化商品と連動した受託等 (信託ファイナンス業務)
- (4) 個人向け運用商品業務：流動化商品、金銭信託等 (信託代理店制度を活用予定)

3. 経営体質強化

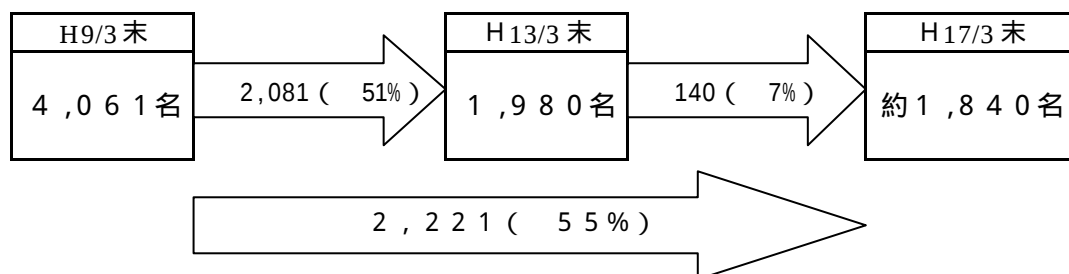
- (1) 財務基盤の抜本強化
 - 不良債権問題の早期解決
 - 第三者割当増資の実施
 - 減資による欠損金の一掃

(2) 経営合理化

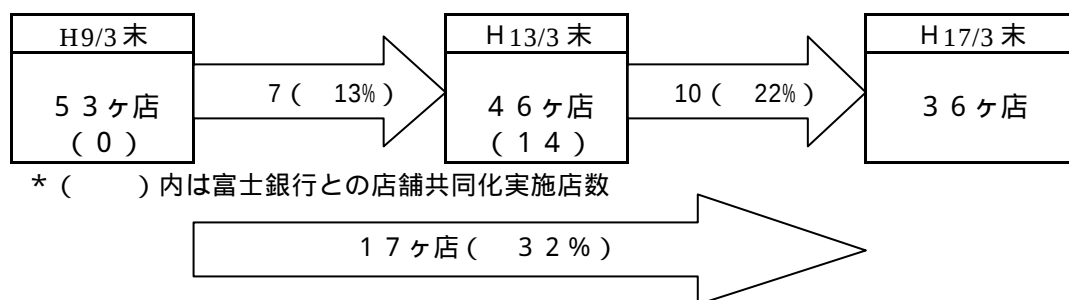
役員数の削減



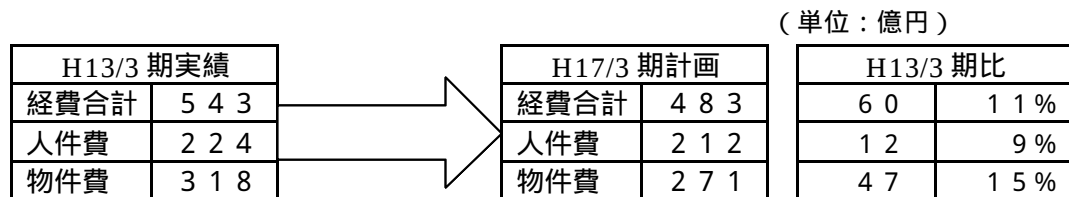
人員の合理化



店舗の効率化



経費削減



以上